

「新しいタイプの学校づくり ～ 発想と創造そして融和 ～」

山形県立酒田光陵高等学校 教諭 古川 武房

1 はじめに

本校は、平成17年2月に市内4校の統合が正式決定され、「総合選択制高校として統合し、スケールメリットを生かし、生徒の多様なニーズに応えられる学校づくり」をコンセプトとして開校準備が進められ平成24年度開校した。山形県においては、これまでにない大規模校の誕生であり、その運営には、新たな発想や仕組み作りの創造が欠かせないところである。

開校以来一年が経過、全教職員が新しい高校づくりに奮闘の毎日であるが、東北・北海道地区で最大の公立高校のこれまでの取組について紹介する。

2 学校概要 [4大学科(7小学科)を設置、1学年11クラス、全校33クラス]



(1)設置学科：普通科（3クラス）、工業科（4クラス）

[機械科・電子機械科・エネルギー技術科・環境技術科]、
商業科[国際経営科]（3クラス）、情報科（1クラス）

(2)生徒数：1,246名(男子680,女子566) 教職員数：133名
(校長1,副校長1,教頭2,本務教員117,事務他12)

(3)分掌組織：一人一分掌・担任専任制

①総務部 ②教務部 ③生徒部 ④進路指導部
⑤環境保健部 ⑥図書視聴覚部 ⑦情報管理部

(4)教育課程

総合選択制（2年次から実施）

2年次3科目6単位、3年次4科目8単位

計14単位、延べ138科目開講

工業科：必履修専門科目25単位

+総合選択科目14単位

(5)校地、施設・設備（最先端の実習設備の導入）

新校舎・旧校舎(旧酒田中央校舎)

+既存施設(旧酒田北・グラウンド・セミナーハウス)

校地 60,344.00 m² 施設 29,211.01 m²

(6)部活動（運動部21部、文化部12部）

陸上競技部・体操部・野球部・ソフトテニス部・卓球部・男子バスケットボール部・女子バスケットボール部・男子バレーボール部・女子バレーボール部・サッカー部・ソフトボール部・柔道部・剣道部・水泳部・山岳部・弓道部・ボクシング部・ウエイトリフティング部・テニス部・ボート部・少林寺拳法部・音楽部（吹奏楽班・管弦楽班）・美術部・書道部・写真部・文芸部・茶道部・英語部・家庭部・ボランティア部・メカニカル技術部（機械技術班・電子機械技術班）・環境エネルギー技術部（エネルギー技術班・土木技術班・化学技術班）・商業技術部（簿記班・珠算班・ワープロ班）・ITサイエンス部

3 学校経営 [開校年度スローガン「融和 協働 創造」]

- (1) ミッション・ビジョン・マネジメントの三位一体化
- (2) 職務QC作戦の実施 (資料精度向上、業務遂行時の確実さ)
- (3) 機能する組織の構築
- (4) 事故防止に向けた安全教育の推進と指導の徹底
- (5) 情報収集と迅速な報・連・相の推進
- (6) 全教職員による支援体制の構築

4 迅速な意思決定と情報共有 [迅速な意思決定に向けたプロセスづくり]

(1) 校務運営会議と職員会議

職員会議1週間前には校務運営会議を開催し、校務運営に係る連絡・調整・確認を行い職員会議に提出する協議事項を精査している。職員会議資料は、3日前までに全教職員のレターケースに配付し、質問等がある場合は予め担当部署に確認の上、職員会議に参加することを原則としている。

(2) グループウェアの活用と朝会、年次・学年、分掌での対面による打合せ

開校当初から、毎日、朝会を開催し打合せを行ってきたが、グループウェアの活用の徹底 (朝会スロット・インフォメーション・回覧板・施設予約等) を踏まえ、今年1月から週2回 (月・木) とした。ただし朝会を開催しない日のこの時間帯には、年次・学年、分掌の対面での打合せを行うことを原則としている。ネットワークの積極的な活用と、Face to Face の人的なネットワークを大切にされた校務運営を進めている。

5 広報活動 [率先した情報発信とパブリシティの活用]

(1) マスコミ等による取材、教育関係者の訪問

開校以来、マスコミ各社からの取材が相次いでいる。東北・北海道一の大規模校開校の話題性・部活動躍進の可能性・全国屈指の大規模校としての学校運営の在り方……など、その対応には相当な時間を要するものの、結果的に学校理解やPRにつながり、こうしたパブリシティを活用した発信を重要視している。

(2) ホームページの機能化

広く本校の概要や魅力等を発信することはもちろんであるが、1,200人以上の在校生とその保護者に対しても必要な情報を即座に提供できるホームページ運営が求められ、災害等においては緊急連絡として機能するホームページを構築し、様々な情報をタイムリーに発信している。

(3) 中学校へのPR活動

中学生への学校説明会には延べ1,285名が参加、それとは別に中学校教員・PTA研修の一環として、本校見学の受け入れを積極的に行っている。これまで市内中学校3学年のPTA研修会としての学校見学を受け入れ、また中学教員の研修の一環としての訪問など、多数の問い合わせがあり対応している。

(4) 地域連携と施設の開放 [MC(メディアセンター：図書館＋公益総合学習室)の開放]

公益総合学習室は、広く市民に開放する施設として階段状構造のホール (最大440名収容) であり、酒田市教委主催の「ものづくり科学教室」を本校会場に開催した。(例年は市文化センターが会場) 小学生とその保護者あわせて約200名が来校し、ものづくりの楽しさを学ぶ機会を提供し、本校の絶好のPRとなった。

また酒田市商工港湾課主催の「さかた産業フェア」へ参加、2日間で延べ5,500名の市民が来場した。その中で、工業科・商業科・情報科の生徒が、普段の学習で培われた知識と技術を披露して本校への理解を促進するものとなった。さらに今年度は、5月中旬に生徒による「山鉾」の製作を行い酒田祭りに参加し、地域との交流を深めることができた。

6 職員間のコミュニケーション [専任制を活かした分掌組織の活性化]

(1)次年度への事業総括の仕組みづくり

各行事については、前年までの実施要項が活用できない中で、工夫し運営されてきているが、年1回の開催という行事もあり、実施後に直ちに総括し次年度への改善策の提言ができるような様式の統一と仕組みづくりを行った。

(2)大規模校としての組織力の強化

統合前の小規模な学校における校務運営スタイルから脱却し、大規模校としての組織を生かした校務運営のあり方、分掌会議の開催、主任の指導力が求められ、外部講師招聘による職員研修会を様々な企画し実施した。（東北エプソン社長による講話を実施）

(3)中間総括会議の工夫

開校以来の各分掌の様々な行事や活動における反省と、「組織の機能化に関するアンケート」など組織マネジメントの手法を実施して、今後の活動の改善点や組織の円滑な運営に繋がるように中間総括会議を実施し組織の運営に役立てた。

7 進路指導 [各科の得意分野を活かした指導]

(1)学科の特徴および生徒の実態に応じた進路状況の提供

進路希望調査を4月・10月(3年は8月に実施)の2回実施、求人票、受験報告書、指定校情報、企業・学校のパンフレットなどを電子データ化して随時必要なところで迅速に提示し、進路相談に役立てた。

(2)企業・学校訪問を精力的に実施

これまでの旧4校の実績を活かし、進路指導部および3学年担任団・学科の協力で企業訪問を実施して地元とは110社以上、県外は50社以上の企業情報と上級学校の説明会に参加し、それぞれの情報を生徒へ迅速に提供した。

(3)進路行事の充実

「進路の日」、「進路ガイダンス」、「講演会」、「公益と産業社会」の1年次の学校設定科目の中で、ガイダンスや講演会を数多く実施し生徒の進路意識の高揚に繋がった。

その内訳としては、6月中旬に企業の人事担当者など多方面からご協力を頂き、進路の日を実施した。(前日には保護者対象のガイダンスを実施)。また、総合学習や「公益と産業社会」の教科、LHRの時間を活用して各学年・年次でガイダンスや講演会を多数実施した。(「公益と産業社会」(1年)だけでも8回実施している)。

インターンシップでは、事前指導としてのセミナーを開催し、普通科が7月下旬に工業科全員と国際経営科の就職希望者は8月下旬に実施した。

(4)進路状況について

【平成24年度進路状況】

学科		卒業生数	進 学					就 職					その他	合計
			4年生大学	短期大学	専修学校	公共職業訓練施設	小計	県内	県外	民間就職計	公務員	小計		
普通科	男	18	3	0	4	0	7	6	5	11	0	11	0	18
	女	136	8	9	62	1	80	34	19	53	0	53	3	136
	小計	154	11	9	66	1	87	40	24	64	0	64	3	154
工業科	男	148	6	1	5	3	15	51	79	130	3	133	0	148
	女	11	1	0	0	0	1	6	2	8	1	9	1	11
	小計	159	7	1	5	3	16	57	81	138	4	142	1	159
商業科	男	33	16	0	8	0	24	7	1	8	1	9	0	33
	女	74	11	8	26	0	45	20	7	27	0	27	2	74
	小計	107	27	8	34	0	69	27	8	35	1	36	2	107
合計		420	45	18	105	4	172	124	113	237	5	242	6	420

進路状況は、在籍人数420名中、就職者が242名で全体の58%、進学者は172名の41%となり、約6割が就職している。この就職者数は地元の高校の中でも他を大きく引き離し、県内でも一番多い数となっており、そのため地元企業の期待は大きく、今年度も各種ガイダンスや就職活動への対応など様々な支援を頂いている。また就職希望者の内定状況は、年度内に全て決定するなど素晴らしい成果を残している。この成果は、開校当初の中でも早期に進路指導の確立に力を尽くしたことと、企業の皆様からの手厚い支援があったからこそと感謝をしている。

8 大規模校の中での工業科の役割 [普通科・商業科・情報科との関わりと実践]

(1) 地域との関わりと実践

広報活動の一環としても実施した「ものづくり科学教室」と「さかた産業フェア」をとおして、地域の小中学生に対して「ものづくり」の楽しさを広めるとともに工業科の教育内容を理解して頂けるよう活動している。

【ものづくり科学教室の各科のテーマ】

- 機械科：世界でただ一つのキーホルダーをつくろう
- 電子機械科：モータの仕組みを考えよう
- エネルギー技術科：電子オルゴールをつくろう
- 環境技術科：風力モーターカーをつくろう

【さかた産業フェアの各科のテーマ】

- ◇国際経営科：ラッピング教室及び名刺作成
- ◇情報科：学科紹介とロボット操作
- ◇機械科：キーホルダー製作(ものづくり体験)
- ◇電子機械科：グラウンド清掃装置の展示
- ◇エネルギー技術科：電気自動車の展示及び試乗
- ◇環境技術科：マグネシウム電池製作(ものづくり体験)



さらに今年度は新しい試みとして、5月中旬に地元の商工会議所の協力を得ながら、生徒による「山鉾」の製作を行い酒田市の「酒田まつり」に参加し、地域との交流を深めることができました。



(2) 資格取得への取組み (技能検定への挑戦と実績)

本校では工業科に関する資格はもちろんのこと、商業系・情報系と、漢字検定・英語検定・数学検定など、普通教科に関係する資格取得もできる幅広い取組が特徴である。特に国家技能検定には、延べ228名が挑戦し、161名(7割)が合格、開校初年度としては質・量共に県内一の素晴らしい成果を上げることができた。

【国家技能検定の合格状況】

1) 普通旋盤	2級	1名	3級	13名
2) フライス盤			3級	1名
3) マシニングセンタ			3級	5名
4) 機械検査	2級	1名	3級	23名
5) シーケンス制御	2級	2名	3級	27名
6) 電子機器組立			3級	17名
7) 機械保全機械系保全	2級	1名	3級	33名
8) 機械保全電機系保全	2級	5名	3級	32名
合計		10名		151名

□ 3級合格者総数151名は山形県の高校生全体（工業科設置11校）の26.5%である。

□ 2級合格者総数10名は山形県の高校生全体の3.5%である。

この成果の要因としては、これまでの地道な資格取得への取り組みも挙げられるが、統合したことにより、他科の生徒との交流の中から高度な資格取得に対する社会的な注目度に気づかされ、取得することの重要性を再認識させられるなど、統合によるスケールメリットの一つの現れであるものと考えている。

(3)他学科との連携

地域との連携活動や資格取得などの面については、開校当初としては各科と協力しながら実践することができている。しかし、各科の教育活動をとおしての相乗的な教育効果を上げる面では、今後とも創意工夫の必要があると認識しており、これからも各科の特徴を活かしながら常に協力していく姿勢が必要だと考えている。

9 まとめ [「大規模・新しさ」から実のある発信へ]

工業科、商業科、情報科という異なる専門学科の設置は、これまでにない専門学科間における新たな創造が期待できそうである。産振棟の工業科生徒の実習の脇で商業科の生徒が会計を学ぶという光景は、専門学科の部活動を通じた交流によって新たな発想と”モノ”が生まれる予感がする。また工業科の堅実な生徒指導や実社会とのつながりを意識した実際的な進路指導は、他学科の教員にとっては新鮮さを感じる部分も多いようである。こうしたことは、複数の専門学科設置による大きなメリットであり、学科間の積極的な交流が、生徒や教員にとって、本校の今後の大きな力になると思われる。

大規模な統合による混乱、組織力や機動力の低下が心配され、また怠惰な方向に流されやすい生徒の雰囲気など、危惧される面が多々あったが、学校に対する生徒の満足感や異なる学科間での交流、行事を通じた充実感、そして生徒会の活発な活動などが一人ひとりの大きな意欲につながり、心配されたことは皆無である。大規模校の可能性を改めて大きく認識している。今後も酒田光陵の歴史と伝統作りに発想と創造を大切に取り組んでいきたい。